

コルテス 伊藤の我が音楽人生

第14回 音楽が起こした奇跡

先生方こんにちは。時のたつのは早いですね。光陰矢の如し、昔の人は本当に素晴らしい格言を残しますね。

今回は音楽が残した奇跡ということで、コルテスでの感動の一夜のことをお話しさせていただきます。

コルテスがオープンして以来、よく来ていただいていた、M氏というお客さんがおりました。M氏は地元のピアニストで、ラウンジやクラブなどでピアノソロを弾き毎日の生業としていた方です。とても面白い方で、親父ギャグを連発したりダジャレなどで周りを笑わせたりしているのですが、ひとたびピアノの前に座るとジャズのピアノソロや皆さんのリクエストに応じてなんでも弾いてくれました。私の家内が『いちご白書』をもう一度、そうですユーミンの名曲ですね、それをリクエストしてM氏に弾いていただいたら、あまりの素晴らしさにそこにいたお客さんや家内が号泣しまして、それ以来みんなM氏のことが大好きになりました。

私はと言いますと、そのあとM氏にピアノのレッスンをしてもらうことになりました。何とか頑張ってはみましたが才能がないのでしょうか、半年で挫折（笑）。しかし、4曲ほどマスターしまして誰もいないコルテスのスタジオで弾いてみたりしております。

そのM氏が一昨身体調を崩しまして、病院に行きましたら肝臓に異変が起きていると言われたそうです。普通でしたら対処するはずだったのですが、M氏は大の病院嫌いでありまして、また危機感がないためそのまま放置していたようです。当然私は病院に行くように諭しましたが言うことを聞きません。そしてそれから半年ばかりコルテ

スには姿を見せなかったので、入院なさったのだとばかり思っておりました。

そんなM氏が去年の初頭にひょっこり現れたので、良かったと思いきや二度の手術をしたとい



うこと、そして3月に三度目の手術をするということとを私に告げました。体調は芳しくないように思えたのですが、冗談ばかり言うので、大丈夫なんだろうかという思いも少しは消えたのですが、お顔を拝見する限り痩せこけて、黄疸症状も見えたので心配でした。そして、また時がたち8月にお会いした時には9月に四度目の手術をするとのこと。そんなに人間は手術ができるのだろうか、またどんな手術をするのかと、そして今度は、退院

は難しいのではないかと思いました。そしてM氏と10月に再会した時には状態は最悪で、悪性腫瘍が全身転移、食事もとれないような状況で、彼は病院にて最期を迎えるのは嫌だと言って出てきてしまったようです。そんなM氏が最後にコルテスでライブをやらせて欲しいと言ってきました。

私は、彼の体力が持つかどうか心配でしたが、とりあえず引き受けることとしました。それまで、点滴などで命をつないだようです。

M氏のライブは12月8日にコルテスで、満員のお客様の中で開催されました。昔からのお付き合いのある地元の演奏家や知人たちが駆けつけてくれました。途中で気を失いそうな場面があり、普通でしたらドクターストップなのですが、何とM氏は最後までやり通しました。来てくれた方との記念撮影には、これが最後だから頑張って撮ってねと冗談を言ってみんなを泣き笑いさせていました。私は、彼が車に乗り込むときに言葉をかけました。

今度は3月だからねと目を潤ませて肩を抱きました。もう骨だけでした。

その後12月23日にお亡くなりになったと訃報が届きました。

今回のM氏のことで人間の気を、とても強い気を感じることができました。音楽に対する彼の情念があり得ない奇跡を起こしたと思っております。私にはM氏のまねはできません。なぜなら私は弱い人間ですから。でも一つの道をやり遂げた方の力強さを学ばせていただきました。

ありがとうMさん、もう一度いちご白書を聞きたかったよ。

(ひたちなか市・伊藤歯科医院 伊藤輝彦)